

学校教育目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」



まいた

令和4年度

5月号

令和4年4月27日

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/maita/>

一ヶ月が過ぎて

校長 高松 一彦

「こんにちは。」私が校舎内を歩いていると、2列に並んで廊下を歩き、しっかりと挨拶をしてくれる子どもたちの姿がありました。「何年生かな。」と思いよく見てみると、上手に並んで給食室に向かう1年生でした。1年生は、小学校に入学してからまだ一ヶ月弱です。入学式翌日より、登校班での登校、昇降口での靴の履き替え、教室に入って朝の準備、朝の会、1時間目から4時間目までの学習、休み時間の過ごし方、そして給食。さらに帰りの支度、帰りの会、各自での下校など、たくさんのことを学んでいます。入学してから新たな経験ばかりだったと思うのですが、この短い期間ですぐに小学校生活に慣れてきたように感じます。子どもたちの適応の早さには、驚くばかりです。

4月当初、私が見かけた高学年の登校班の班長さんは、班の先頭を歩くことになかなか慣れず恥ずかしそうに先頭を歩いていた。しかし、最近では時々後ろを振り返って班の人たちの様子を見て、「もう少し道路の端を歩こうね。」とか、「前から車が来るから気をつけてね。」などと、声をかける姿が自然に見られるようになりました。まだ班長としての経験は浅いのですが、その間にも、後ろを歩く低学年にも気を配れるほど成長した姿が見られるようになりました。先日は、けんかをしている班の人たちを優しくなだめる様子も目にしました。

また、別の日、1年生と6年生と一緒に円形校舎のホールで数人ずつ輪になり、何かをしている様子を目にしました。早速、「ねえねえ、1年生と6年生とで一緒に何をしているの。」と聞いてみました。すると6年生が「給食で飲み終わった牛乳パックを、どうやって開くのかを教えてあげています。」との答えでした。飲み終えた給食の牛乳パックは、リサイクルをするために1枚の紙のように開くのですが、子どもたちにとって、かなり難しい作業です。それを丁寧に教えてあげている6年生と、話を聞いて一生懸命に練習している1年生の姿を見て、異学年交流の大切さ、素晴らしさを改めて感じました。



牛乳パックの開き方を教える6年生と一生懸命練習する1年生

今も、この原稿を校長室で書いていると、子どもたちの声が近づいてきました。今日は、2年生が1年生に学校の中を案内してあげています。「ここが職員室だよ。先生たちが仕事をする部屋だよ。」一ヶ月前まで1年生だった2年生も、すっかりお兄さん、お姉さんとして活躍しています。

「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」たち。この一ヶ月で、しっかり成長しています。